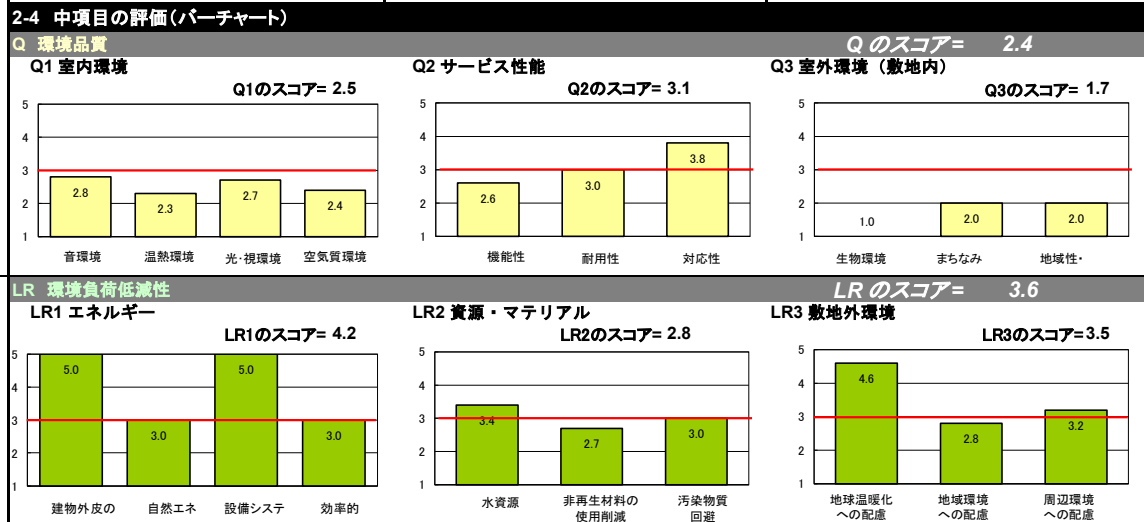
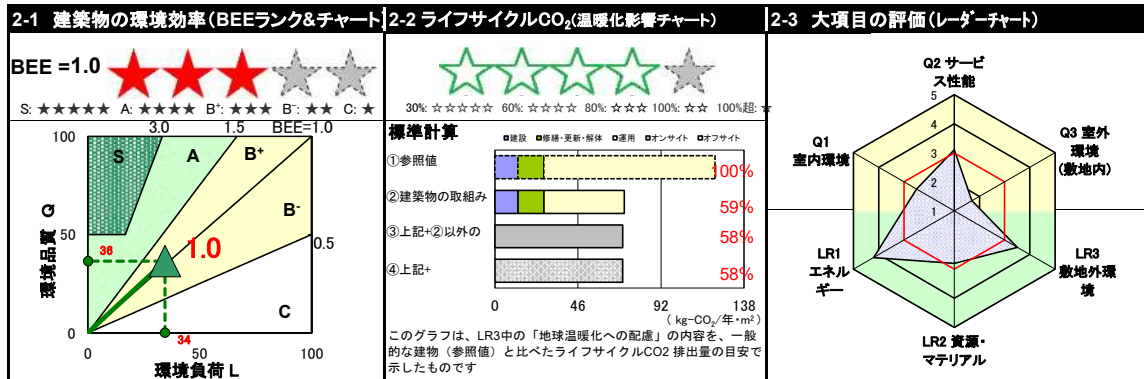


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	一宮地域交流会館(仮称)建設工事(複合施設)	階数	地上2階
建設地	愛知県豊川市一宮町豊1の一部	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、防火地域・指定なし	平均居住人員	280 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年
建物用途	事務所・集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2029年3月 予定	評価の実施日	2024年12月19日
敷地面積	12,278 m ²	作成者	赤松 佳珠子
建築面積	1,802 m ²	確認日	2025年1月24日
延床面積	2,836 m ²	確認者	竹本 幸夫



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
4.6	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		0.0 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
3.0	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
一宮地域交流会館(仮称)建設工事(複合施設)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質										2.4	
Q1 室内環境						0.40			-	2.5	
1 音環境				0.1	2.8	0.15			-	2.8	
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40			-		
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40			-		
1 開口部遮音性能				-	3.0	0.86			-		
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.14			-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-			-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-			-		
1.3 吸音				-	2.3	0.20			-		
2 温熱環境				0.3	2.3	0.35			-	2.3	
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50			-		
1 室温				3.0	3.0	0.38			-		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.25			-		
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38			-		
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20			-		
2.3 空調方式				3.0	2.3	0.30			-		
3 光・視環境				0.2	2.7	0.25			-	2.7	
3.1 昼光利用				0.3	2.4	0.30			-		
1 昼光率				3.0	2.0	0.60			-		
2 方位別開口				3.0	-	-			-		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40			-		
3.2 グレア対策				0.1	2.0	0.10			-		
1 昼光制御				5.0	2.0	1.00			-		
3.3 照度				3.0	3.0	0.18			-		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.41			-		
4 空気質環境				0.2	2.4	0.25			-	2.4	
4.1 発生源対策				0.5	3.0	0.50			-		
1 化学汚染物質				3.0	3.0	1.00			-		
4.2 換気				0.3	2.3	0.30			-		
1 換気量				3.0	3.0	0.33			-		
2 自然換気性能				3.0	1.0	0.33			-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33			-		
4.3 運用管理				0.2	1.0	0.20			-		
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-			-		
2 喫煙の制御				3.0	1.0	1.00			-		
Q2 サービス性能					-	0.30			-	3.1	
1 機能性				0.4	2.6	0.40			-	2.6	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40			-		
1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.11			-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.11			-		
3 バリアフリー計画	独自			3.0	3.0	0.77			-		
1.2 心理性・快適性				0.3	1.7	0.30			-		
1 広さ感・景観 (天井高)		事務室の天井高:3.545m		3.0	5.0	0.11			-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上		3.0	4.0	0.11			-		
3 内装計画				3.0	1.0	0.77			-		
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30			-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50			-		
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50			-		
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31			-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48			-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80			-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20			-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.1	0.33			-		
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23			-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			-	3.0	0.23			-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09			-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08			-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水HPPE(D)、給湯SUS(C)、排水VP(B)。		-	4.0	0.15			-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23			-		
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19			-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20			-		
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20			-		
3 電気設備	②			3.0	3.0	0.20			-		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20			-		
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20			-		

3 対応性・更新性			0.2	3.8	0.29	-	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			0.3	4.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		階高:3.7m以上、3.9m未満。	-	4.0	0.20	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ		0.1≦[壁長さ比率]<0.3	3.0	4.0	0.80	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり		書架の床荷重:5900N/m ²	3.0	4.3	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.3	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②	構造部材、仕上材を痛めることなく修繕、更新できる。	-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	5.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.66	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.46	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 水資源確保			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	LGS使用している。	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率58%	-	4.6	0.33	-	-	-	4.6
2 地域環境への配慮			0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.5	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。	-	5.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE 建築(新築)2016年版+あいち版手引き

一宮地域交流会館(仮称)建設工事(複合施設)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					4.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.6	0.10	3.0	
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19		
③ 敷地内の緑化					1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 一宮地域交流会館(仮称)建設工事(複合施設)

計画上の配慮事項	
総合	主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	特になし。
Q2 サービス性能	階高:3.7m以上、3.9m未満。
Q3 室外環境(敷地内)	特になし。
LR1 エネルギー	BPI=0.66 BEI=0.46
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGS使用している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率58%
その他	特になし。